

H. 26 国語教材

○小学部：片仮名を書こう	国 1
○小学部：拗音，促音，長音カード	国 2
○小学部：文章つくろうボード	国 3
○小学部：どんな気持ちシート	国 4
○小学部：三語文を作ろう	国 5
○小学部：絵カードの名称を平仮名文字で作ろう	国 6
○小学部：フェルトの動物で数字や文字を学ぼう	国 7
○小学部：シンボルカードと文字カードを対応させよう	国 8
○小学部：色と平仮名文字のマッチング	国 9
○小学部：「〇〇が□こあります」カード	国 10
○小学部：異形マッピングカード	国 11
○小学部：動きのことばカード	国 12
○小学部：一字一音カード	国 13
○中学部：平仮名を読もう	国 14
○中学部：50音カード	国 15
○中学部：楊枝差し	国 16
○中学部：文章とイラストのマッチング	国 17
○中学部：同じ〇〇のお部屋に入れようⅣ	国 18
○中学部：仲間探しカード	国 19
○中学部：名前は何？	国 20

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
片仮名を書こう	国語	小学部
【ねらい】	・助詞や濁音，半濁音，促音，長音，促音，拗音を正しく用いて簡単な文を書く。（内容表：国語：書く：文字や文を書く：12160：Ⅳ）	

○教材の使い方



○工夫点

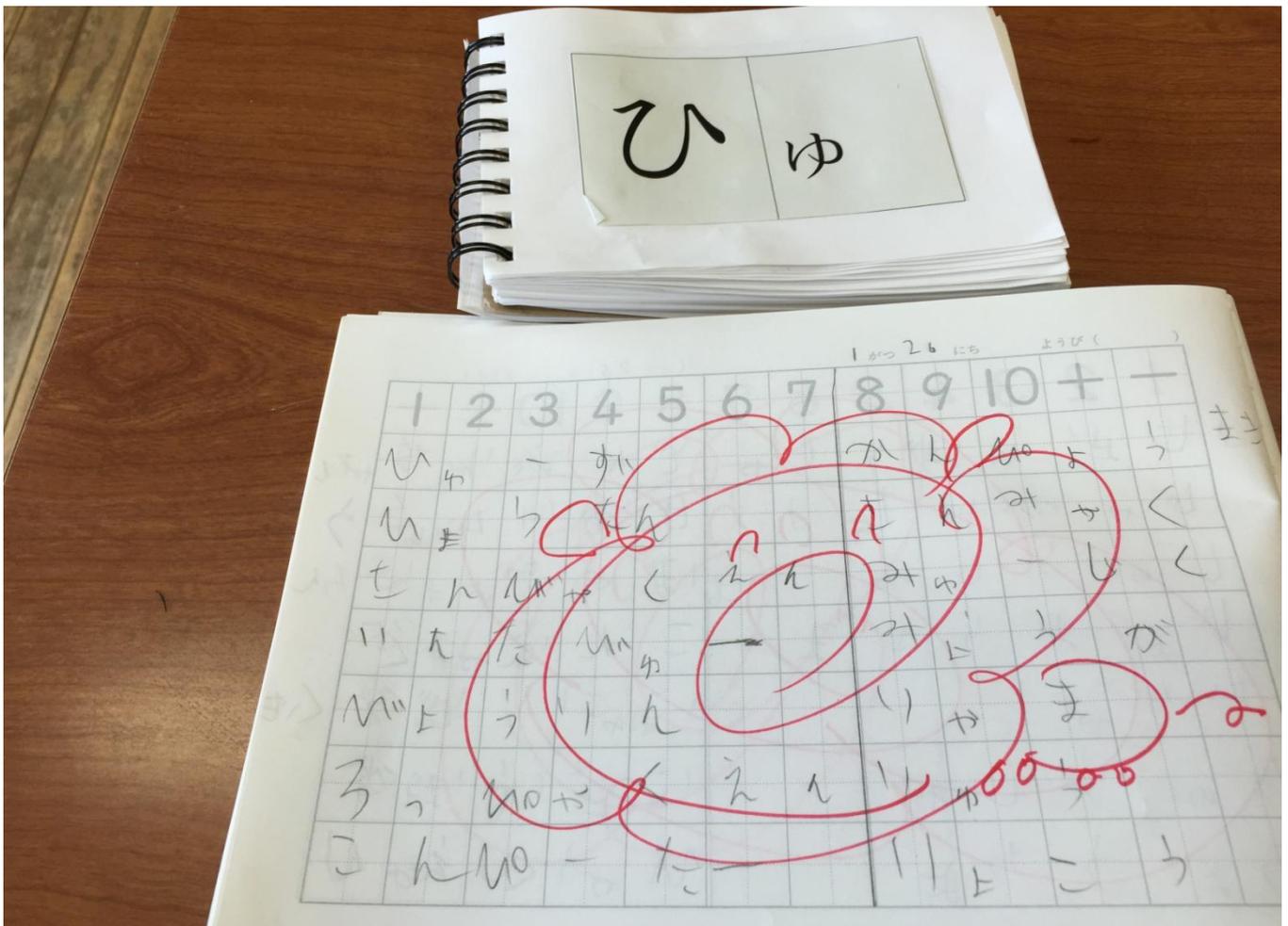
- ・空白部の片仮名文字を考えさせ，まずに書いている片仮名を書くようにしている。

○効果・改善点

- ・ノートやタブレットを使用して，自学学習や課題学習に一人で取り組むことができた。

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
拗音, 促音, 長音カード	国語	小学部
【ねらい】	・ 助詞や濁音, 半濁音, 促音, 長音, 促音, 拗音を正しく用いて簡単な文を書く。(内容表: 国語: 書く: 文字や文を書く: 12160: IV)	

○教材の使い方



○工夫点

- ・ 拗音, 即音, 長音等をカードを作り, ノートに模写させるようにした。

○効果・改善点

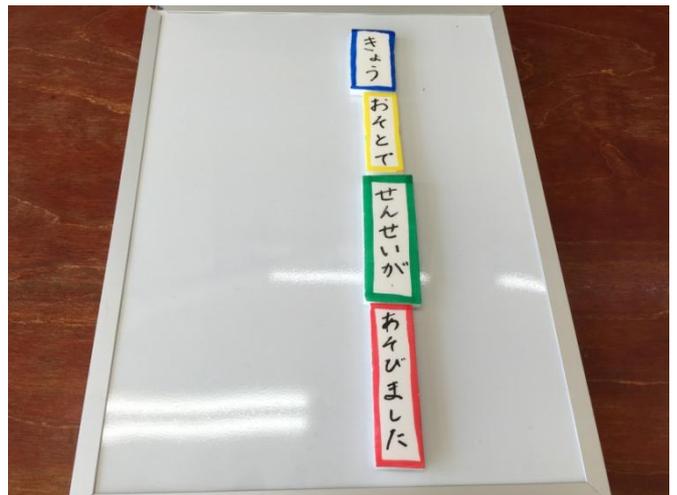
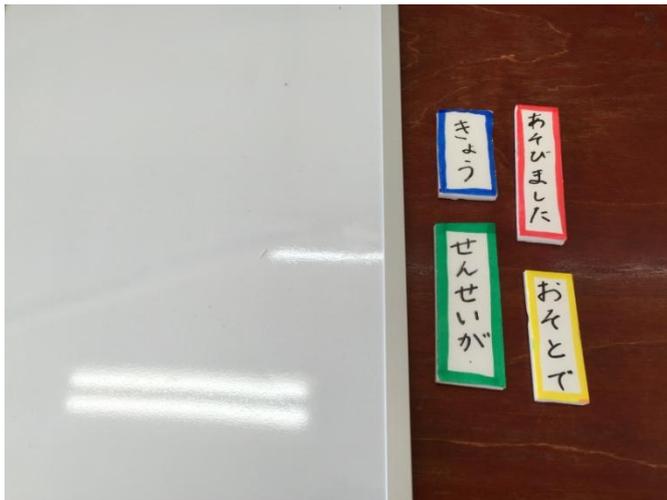
- ・ すでに書いている拗音, 即音, 長音等を模写して書くことができるようになった。

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
文章つくろうボード	国語	小学部

【ねらい】

・「いつ, どこで, だれが, (だれに) 何を, どうしたか」をおとさず文として構成する。(内容表: 国語: 聞く・話す: 伝える: 12070: IV)

○教材の使い方



○工夫点

・書くことに時間がかかる児童だったので, デコパネで作っておいて並べかえるだけの教材にした。

○効果・改善点

- ・主語, 述語の順番はわかってきた。
- ・徐々に「どこで」や「なにを」が混ざった文の構成を課題にしている。

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
どんな気持ちシート	国語	小学部
【ねらい】	・ <u>気持ちを表す言葉を覚える。</u>	

○教材の使い方



絵の表情を見ながら，気持ちを表す単語カードを対応させる。

○工夫点

- ・ 表情の違いを比べ正しい言葉を選ぶようにした。
- ・ マジックテープをカードに貼り，一人で何度も繰り返し取り組めるようにした。

○効果・改善点

- ・ 絵の表情と気持ちを表す言葉を正しくマッチングすることができるようになった。
- ・ 位置で暗記していることが予想されるので，表情のカードを1枚ずつ提示すると，より定着させることができた。
- ・ 汎化するために，どのような場面でその言葉を使用するのか，発展させる必要がある。

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
三語文を作ろう	国語	小学部

【ねらい】	・文中における主語と述語の関係や助詞に注意して文を構成する。(国語：文章の構成：12166 IV)
-------	---

○教材の使い方



○工夫点

- ・自分が経験したことを三語文で表現できるよう、写真の様子を見ながら主語と述語などの文字カードを構成する課題を着脱式にして、何度も繰り返して学習できるようにした。
- ・実際に活動した場面の写真を使うことで、帰りの会で振り返りの場面や家庭の人に学校での様子を伝える場面で活用できるようにした。

○効果・改善点

- ・文字カードが無くとも写真の様子を三語文で話したり書いたりすることができるようになった。

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
-------	---------	-------

絵カードの名称を平仮名で作ろう	国語	小学部
-----------------	----	-----

【ねらい】	・絵カードと文字カードのマッチングをする。(内容表：国語：読む：文字の理解：12101Ⅱ)
-------	---

○教材の使い方



○工夫点

- ・マジックテープで着脱式にして、何度も学習できるようにした。
- ・例えば「みみ：は、人間のもの、動物のもの、写真や絵など用意し、カテゴリ分けもできるようにした。
- ・名称は、一音節ずつに分けて、固まりでなく覚えられるようにした。

○効果・改善点

- ・最初は、 に物の名称（主語）の文字カードと数字カードを貼るよう課題に取り組む。発展課題として物の名称（主語）の文字カードと数字カード無しで、絵を見て「〇〇が△ひきます。」と答える学習が行えた。

国6

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
-------	---------	-------

フェルトの動物で数字や文字を 学ぼう	国語 算数	小学部
-----------------------	----------	-----

【ねらい】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事物や絵カードと対応させながら平仮名の簡単な文章を読む。（内容表：国語：文字の理解：12100 Ⅲ） ・ 100までの数の大小が分かる。（内容表：算数・数学：数量・数順：13023 Ⅲ）
-------	--

○教材の使い方



○工夫点

・ フェルトの感触，また並べることが好きな児童なので，100鈎のフェルトを文章通りに並べるよう，ペーパーサート風にした。

○効果・改善点

・ 他にも，フェルトが色違いのものやシャツ等もあり，「〇〇色の，△△が□こあります。」など三語文以上の文章を多数学習することができた。

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
シンボルカードと文字カードを 対応させよう	国語	小学部
【ねらい】	・絵カードと文字カードのマッチングをする。(内容表：国語：文字の理解：12101 II)	

○教材の使い方



○工夫点

・音声言語を持たない文字を読むことが難しい生徒でも、物の名称を理解する学習に取り組めるようにした。

○効果・改善点

・指さしをしない生徒であったが、教師が物の名称を言いながら文字カードを手渡すと、絵カードの の部分に文字カードを貼って答えることができた。
 ・発展学習として、「朝、何で学校に来たのですか。」や「鼻をかむ時に使うのはどれですか。」など目的や用途を問う課題にも同様の教材で行えた。

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
色と平仮名文字のマッチング	国語	小学部
【ねらい】	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な色の弁別ができる。（内容表：算数・数学：色：13088 II） ・絵カードと文字カードのマッチングをする。（内容表：国語：文字の理解：12101 II） 	

○教材の使い方



○工夫点

- ・マジックテープで着脱式にし、何度でも色の学習ができるようにした。

○効果・改善点

- ・文字カードを使用せず、色カードだけ提示して、色の名称を答える課題も行い、色の名称を正確に覚えることができた。

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
「〇〇が□こあります」カード	国語 算数	小学部
【ねらい】	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名や片仮名の単語や文を読む。（内容表：国語：文字の理解：12102 Ⅱ） ・10までの数の大小が分かる。（内容表：算数・数学：数量・数巡：13020 Ⅱ） 	

○教材の使い方



○工夫点

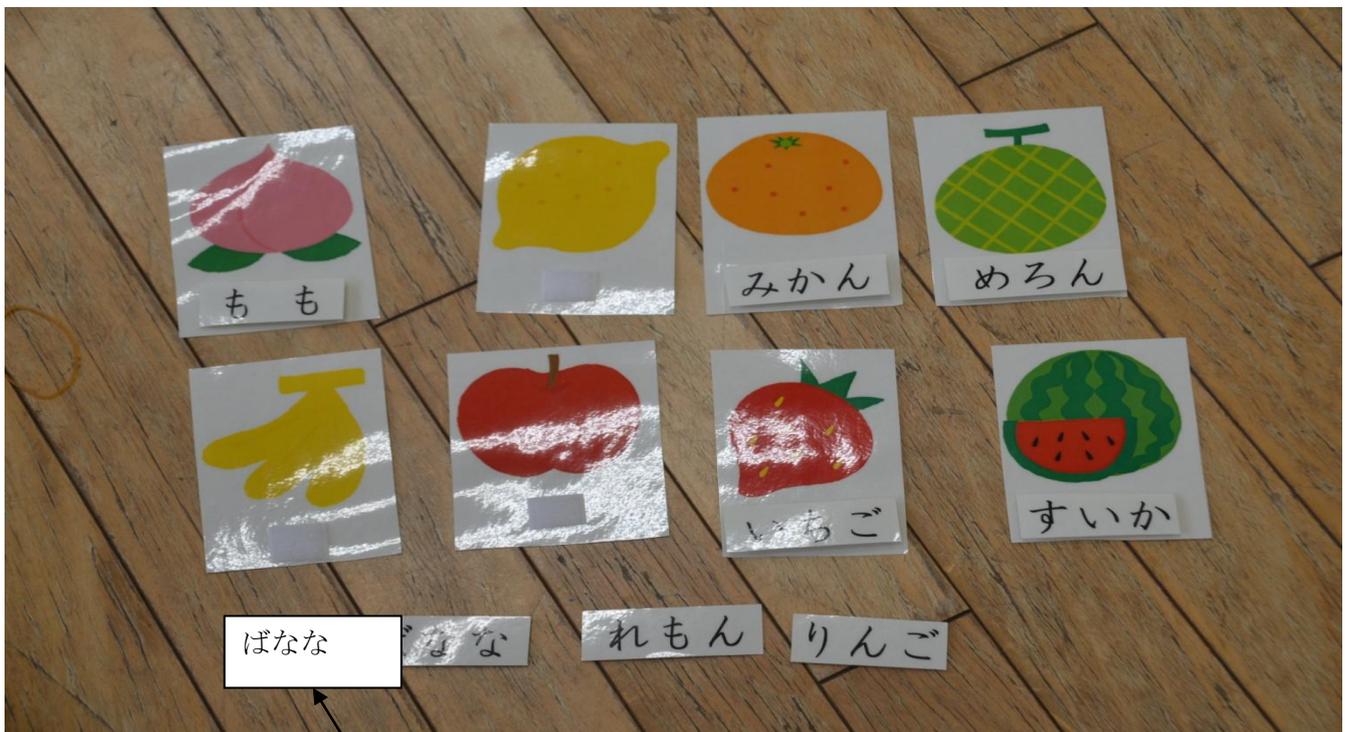
- ・マジックテープで着脱式にして、何度も学習できるようにした。

○効果・改善点

- ・最初は、 に物の名称（主語）の文字カードと数字カードを貼るように課題に取り組む。発展課題として物の名称（主語）の文字カードと数字カード無しで、絵を見て「〇〇が△ひきいます。」と答える学習が行えた。

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
異形マッチングカード (絵と文字のマッチング)	国語	小学部
【ねらい】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事物や絵カードと対応させながら平仮名の単語を読む。(内容表：国語：文字の理解：12100：Ⅱ) ・ 絵カードと文字カードのマッチングをする。(内容表：国語：文字の理解：12101：Ⅱ) 	

○教材の使い方



絵カードを見て、絵に対応する単語カードを貼る。

○工夫点

- ・ 初めは、マジックテープの下にひらがなも示しておき、慣れてきたらそれを切り落とし絵のみにした。
- ・ 見本の絵カードと単語カードの両方にマジックテープを貼ることで、児童が文字カードを貼る活動をしやすくした。
- ・ カードにラミネートフィルムを貼ることで、耐久性を高め、繰り返し使えるようにした。
- ・ 児童が好むマジックテープを利用して教材を作った。

○効果・改善点

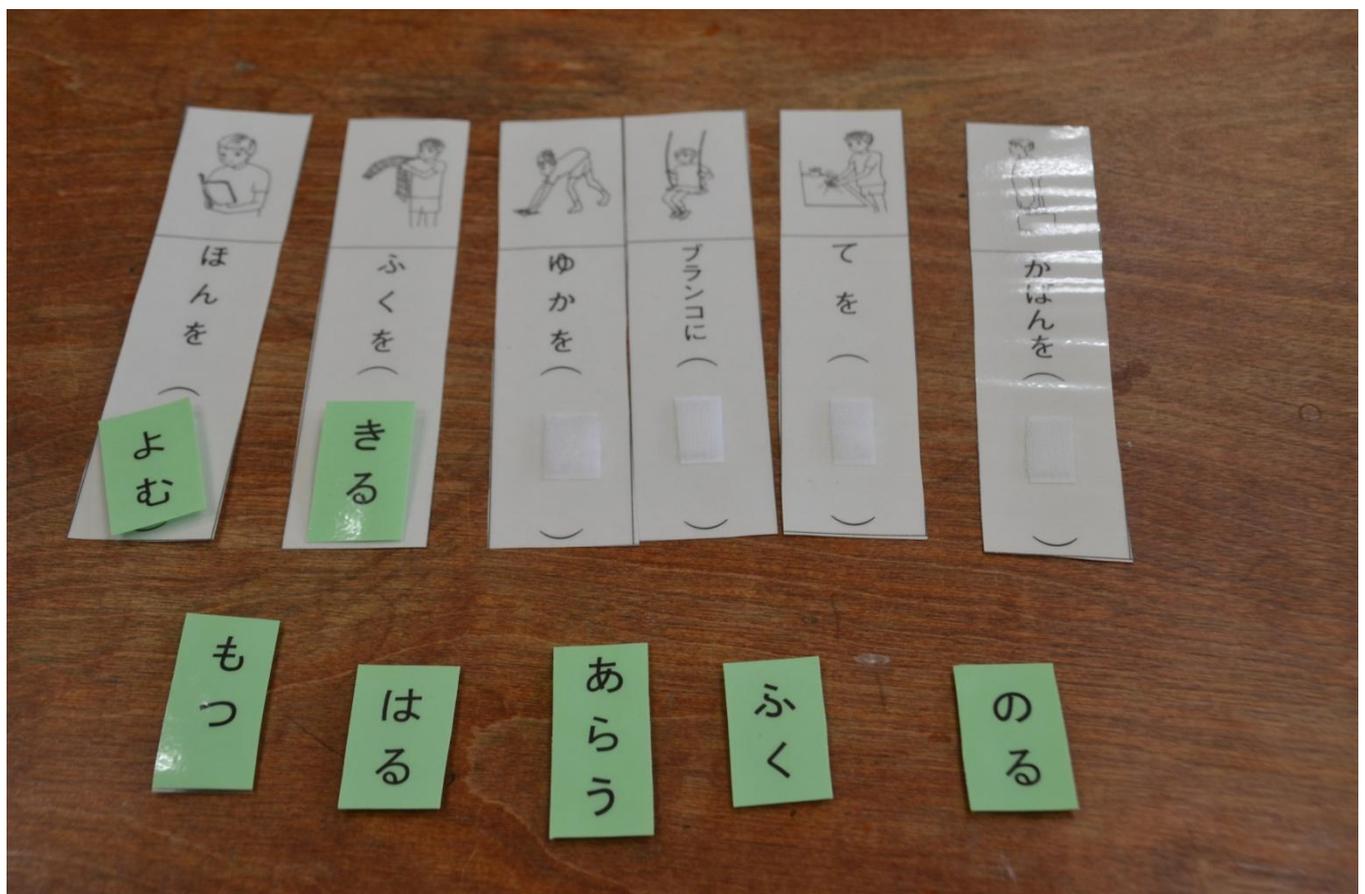
- ・ 文字と文字のマッチングから文字と絵のマッチングに自然に移行することで混乱することなく取り組めた。
- ・ 2から3枚から始め徐々増やしていくようにした。マッチング後に「いちご」「もも」と発声させることで音にも結びつくようにしたところ、一人で発音しながらマッチングできるようになった。

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
動きのことばカード	国語	小学部

【ねらい】

- ・主語（名詞），述語があることを知り，二語を使って文を構成する。（国語：書く：文章の構成：12164：Ⅲ）
- ・文中における主語と述語の関係や，助詞に注意して文を構成する。（国語：書く：文章の構成：12166：Ⅳ）

○教材の使い方



絵を見て主語に対応する述語のカードを選択して文章を完成させる。

○工夫点

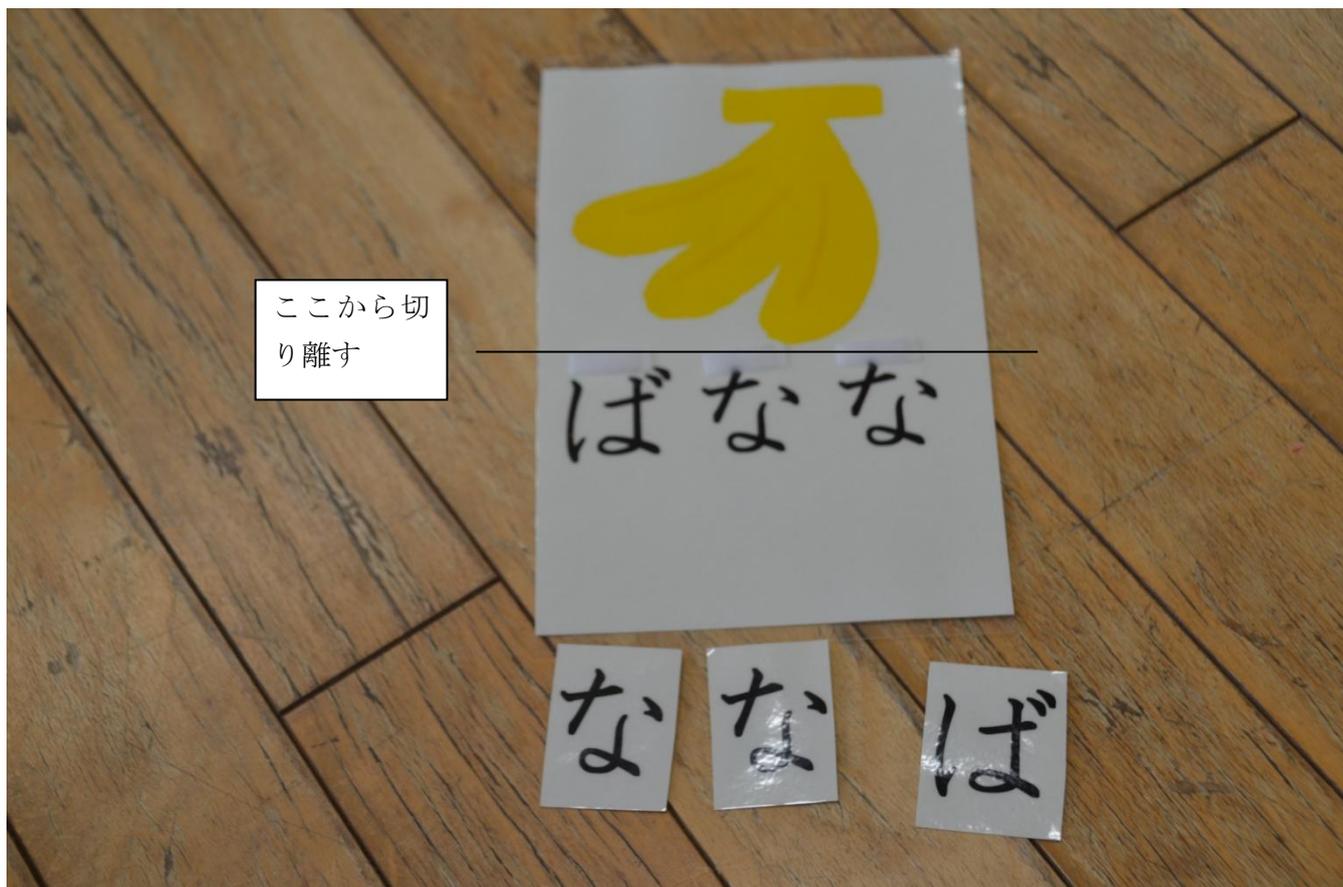
- ・カードにラミネートフィルムを貼ることで，耐久性を高め，繰り返し使えるようにした。
- ・聴覚に障害があり，動詞や助詞が理解できていない児童に使用した。
- ・絵と動詞と手話で1つずつ動詞を理解させながら進めた

○効果・改善点

- ・初めは4語からスタートする。動詞の働きを理解してから3ヶ月で40語をマスターした。この後カードを貼るのではなく，実際に文字にとして書くことにつなげている。

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
一字一音カード	国語	小学部
【ねらい】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事物や絵カードと対応させながら平仮名の単語を読む。（内容表：国語：文字の理解：12100：Ⅱ） ・ 絵カードと文字カードのマッチングをする。（内容表：国語：文字の理解：12101：Ⅱ） 	

○教材の使い方



見本となる絵カードをみて、対応する五十音の文字カードを見本の文字の上に貼り、単語を完成させる。

○工夫点

- ・ 見本カードと五十音の文字カードの両方にマジックテープを貼ることで、児童が文字カードを貼る活動をしやすくした。
- ・ カードにラミネートフィルムを貼ることで、耐久性を高め、繰り返し使えるようにした。

○効果・改善点

- ・ 初めは、一文字ずつ声にだして読みながら貼らせるようにした。慣れてきたら、カードの平仮名の部分を切り離し、絵のみのカードにしたところ、順序通りに並べ替えできるようになった。並べ終わったところで一文字ずつ指さししながら発音できるようになった。

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
平仮名を読もう	国語	中学部

【ねらい】	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードと文字カードのマッチングをする。（内容表：国語：読む：文字の理解：12101：Ⅱ） ・物の名前を文字で表すことができるようになる。
-------	---

○教材の使い方



○工夫点

- ・好きな食べ物の写真を用い、文字に興味を持てるようにした。

○効果・改善点

- ・食べ物の名前から文字に興味を持つようになってきた。

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
50音カード	国語	中学部

【ねらい】	・絵カードと文字カードのマッチングをする。(国語：読む：文字の構成：12101：Ⅱ)
-------	--

○教材の使い方



○工夫点

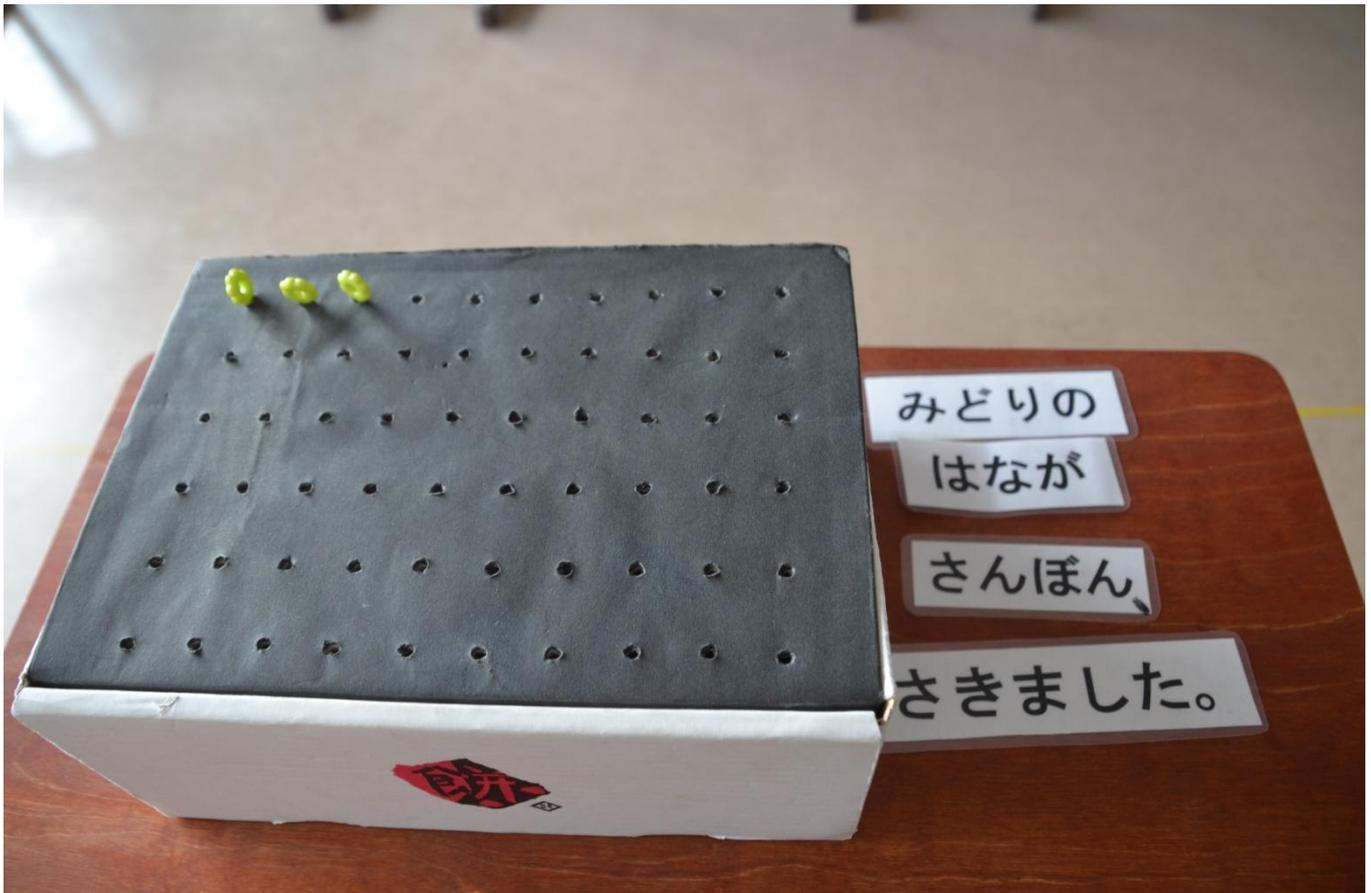
- ・明確な文字と扱いやすい大きさ，厚み，縦・横書きに対応できる枠を用意した。
- ・枠の中に同じサイズの見本の文字カードを入れることができる。

○効果・改善点

- ・枠のあなの数や見本の文字カードを手掛かりにして，1～4文字の文字を並べることができるようになった。

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
楊枝差し	国語・数学 自立活動	中学部
【ねらい】	<ul style="list-style-type: none"> ・親指と人差し指で物をつまむ。（内容表：保健体育：基本の運動：手指の動き：18026：I） ・平仮名や片仮名の単語や文章を読む。（内容表；国語；読む；文字の理解：12102：II） 	

○教材の使い方



○工夫点

- ・文節を替え、読み取った内容を楊枝に刺して示すことで、文章読解が来ているか、分かるようにした。
- ・手指の巧緻性（摘む、小さな穴に入れる、穴から抜く）をねらった。
- ・箱の中に教材が一括して保管できる。

○効果・改善点

- ・いろいろなパターンの文章を作ることが出来、文章読解が来ているか確認することができた。
- ・目と手の協応動作、手指の巧緻性が高まる。
- ・台紙の色を変えることで色の弁別にも使える。

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
文章とイラストのマッチング	国語	中学部
【ねらい】	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名や片仮名の単語や文章を読む。（内容表：国語：読む：文字の理解：12102：Ⅱ） ・事物と絵カードを対応させながら平仮名の簡単な単語を読む。（内容表：国語：読む：文字の理解：12103：Ⅲ） 	

○教材の使い方



○工夫点

- ・イラストを分かりやすいように、みぢかなものを多く取り入れるようにした。
- ・また、文を読ませながらマッチングすることで、日常で使用する単語を増やそうと考えた。

○効果・改善点

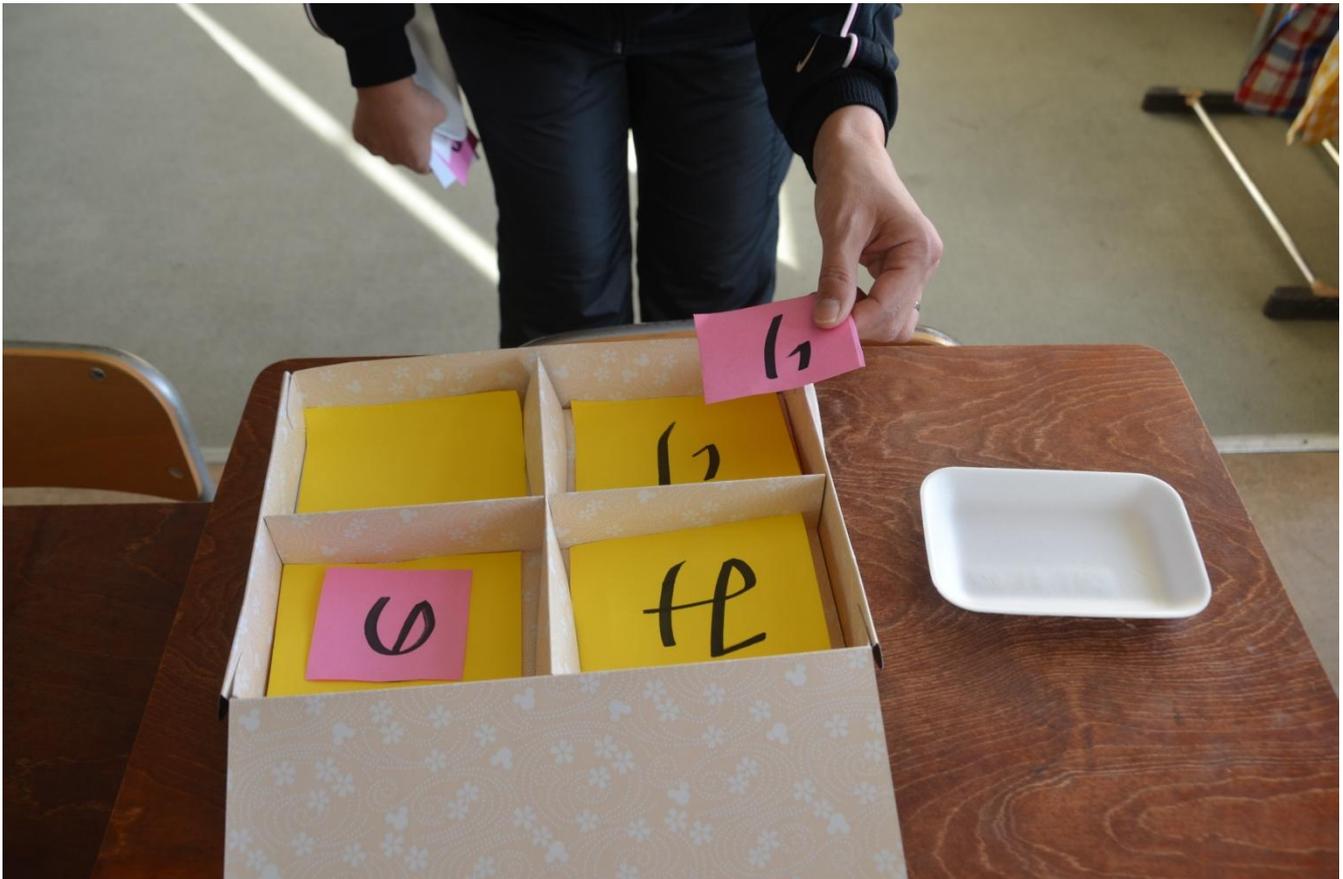
- ・何度か繰り返し行くと、マッチングできるものが増えた。
- ・できるようになったら、イラストを見ながら自分で単語を選び、文を作成できるような工夫を加えられるとさらに良かったと感じた。

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
同じ〇〇のお部屋に入れようⅣ (平仮名文字)	国語 自立活動	中学部

【ねらい】

・ 形の特徴を見分けて、何の文字かを言ってから分類する。

○教材の使い方



○工夫点

- ・ “やり方はお同じ部屋に入れる” を利用した。
- ・ “共通点を見つける” 言葉を使って行えた。

○効果・改善点

- ・ 「言う」 ことで単なるゲームにならないようにすることでよく見るようになった。
- ・ 「み」「り」「の」 の言葉の位置を行って確かめました。

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
仲間探しカード	国語	中学部
【ねらい】	・用途や性質によって仲間分けをしたり、共通項を見つけたりする。（内容表：国語：言語の概念：12028：Ⅲ）	

○教材の使い方



○工夫点

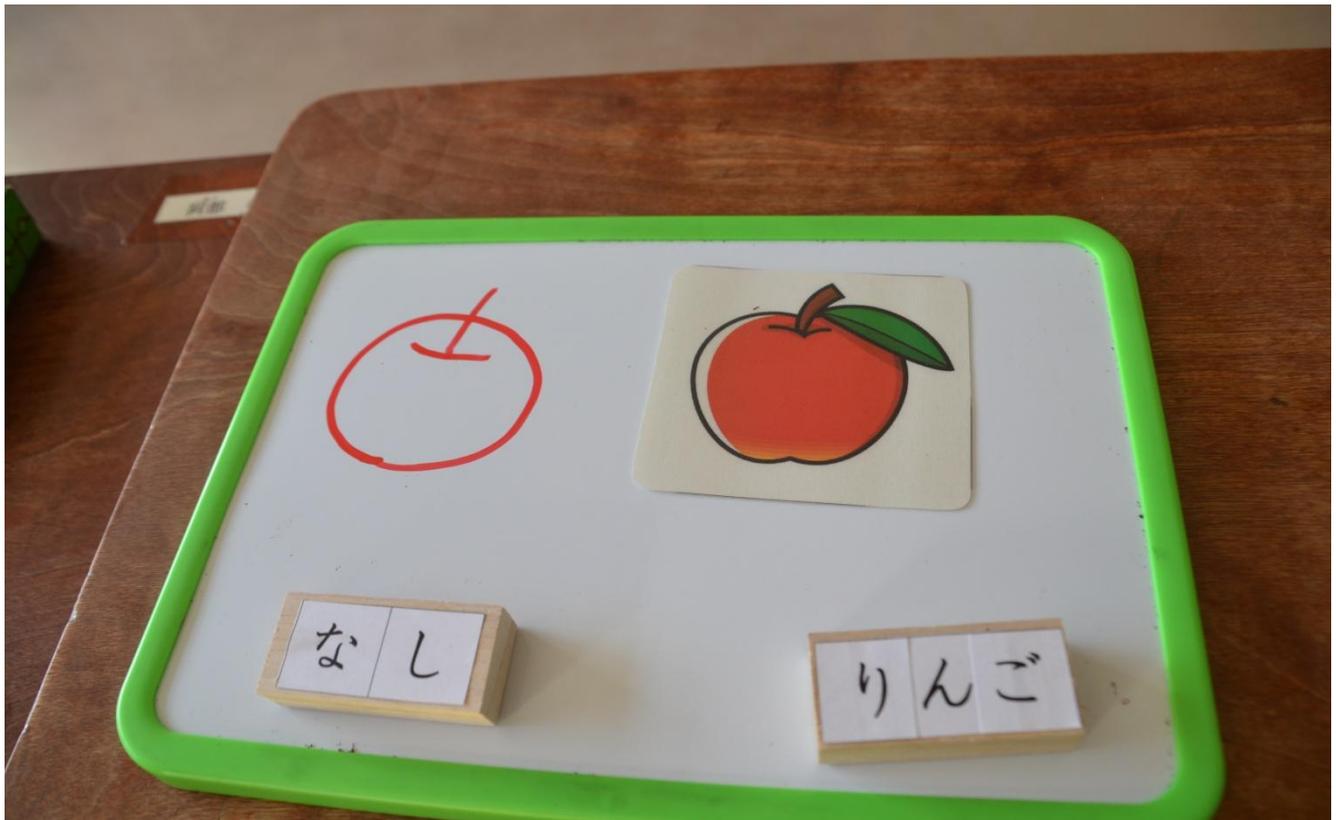
- ・ 絵の周囲を切り取っておくことで、絵の内容に集中しやすい。ラミネートし扱いが容易。
- ・ 「食べ物」「動物」「乗り物」等、用途や性質によって仲間分けしたり、分けられているカードを見て何で分けられたのか考えることができる。

○効果・改善点

- ・ 「動物園」「レストラン」等、生徒がイメージしやすいような性質の手掛かり（カテゴリー分け）を提示することで、性質による分類をすることができた。

【教材名】	【教科・領域】	【学 部】
名前は何？	国語	中学部
【ねらい】	・ <u>事物や絵カードと対応させながら平仮名の単語を読む。</u>	

○教材の使い方



○工夫点

- ・ 絵カードと文字（単語）のマッチングを行った。書くことにも興味があったので、○、＋、△などを視写し、○ならそれに似たりんごの絵を見せてりんごの絵を書き、単語カードを選択するようにした。鉛筆で紙に書くよりもホワイトボードとマーカーが生徒に合っていたので使用した。

○効果・改善点

- ・ 絵カードと単語カードを使っでのマッチングに加え、書きたいという気持ちを取り入れたことで、とても集中して行えた。視写ができるようになったことで形をとらえるちからがついてきて、単語の選択もより確実になった。また、絵を書くことでペン運びが上手になり、線引きが安定しなぞり書きができるようになった。